

「最近の機械貿易動向(7月)～機械輸出額9ヶ月連続減少～」

日本機械輸出組合 2019.9.19

2019年7月の機械輸出額は4兆2,373億円、対前年同月比2.0%減と、9ヶ月連続で前年同月比減少した。これは、① 中国向けはじめ3地域向けで減少したこと、② 21業種中16業種が減少したことなどによる。為替・営業日要因が3.1%の増加寄与要因だったことを考慮すると、実質的な伸び率は4.9%減となった。2019年8月の為替・営業日要因は10.9%の減少寄与要因となっているが、9月18日発表の貿易統計速報による簡易計算では、8月の機械輸出は9.4%減であった。

I 要約

1. 全商品貿易動向(図表1)

- ① 全商品輸出額:6兆6,434億円(前年同月比[以下同じ]1.5%減、8ヶ月連続減少)
- ② 全商品輸入額:6兆8,941億円(1.2%減、3ヶ月連続減少)
- ③ 貿易収支:2,507億円の赤字

2. 機械貿易動向

(1) 機械輸出入動向(図表2)

- ① 機械輸出額:4兆2,373億円(2.0%減、9ヶ月連続減少)
為替・営業日要因を除いた実質的な伸び率:4.9%減(2ヶ月連続減少)
- ② 機械輸入額:2兆1,902億円(1.5%増、再び増加)

(2) 為替・営業日動向

2019年7月に3.1%の増加要因、8月に10.9%の減少要因、9月に3.6%の増加要因となる。

(3) 地域別動向

- ① 北米、EU、その他地域向けの3地域向けが前年同月比増加(図表4、5)
- ② 北米向け:5.7%増、5ヶ月連続増加(図表4、5)
- ③ 中国向け:12.0%減、5ヶ月連続減少(図表4、5)
- ④ ASEAN・南アジア向け:8.9%減、7ヶ月連続減少(図表4、5、6、8、9)
- ⑤ EU向け:6.5%増、4ヶ月ぶり増加(図表4、5)
- ⑥ 韓国・台湾向け:10.0%減、18ヶ月連続減少(図表4、5、6、7)
- ⑦ その他地域向け:7.0%増、8ヶ月ぶり増加(図表4、5、10)

(4) 業種別動向(図表11)

上位21業種中5業種が増加。そのうち船舶が二桁の伸び

(5) 機種別動向(図表12、13)

- ① 船舶(その他地域向け中心)等が大きく増加
- ② 鉄道車両、携帯電話等が大きく減少

(6) 機械輸入動向(図表14)

- ① 機械輸入額上位12機種のうち、7機種が増加
- ② そのうち3機種が二桁の増加

Ⅱ トピックス

1. 【シンガポール】輸出低迷で経済成長率の見通しを引き下げ。東南アジア各国の成長も鈍化

シンガポールの2019年第2四半期（4-6月期）の経済成長率は前年同期比0.1%と、第1四半期（1.1%）からさらに落ち込んだ。米中貿易摩擦を受け、主力の製造業の輸出不振が要因となった。特に電子機器の輸出は前年比27%減と落ち込んだ。

シンガポール政府は2019年の成長率見通しを引き下げ、0~1%程度になるとした。アナリストは、景気の減速は続き第3四半期にリセッション入りする可能性が高いとしている。これを受けて、政府は景気刺激策の導入を検討している。

他の東南アジア諸国も経済成長が鈍化している。インドネシアの第2四半期の経済成長率は、前年同期比で5.05%増とやや減速した。タイは減速傾向が鮮明で、前年同月比2.3%増と約5年ぶりの低い伸びとなった。一方、生産移管が進むベトナムの第2四半期の成長率は、前年同期比で6.71%と好調だった。フィリピン、マレーシアは各々5.5%、4.9%となった。

また、ASEANの7月の製造業PMI（購買担当者景気指数）は、前月の49.7から49.5に低下している。各国の中央銀行は相次いで利下げに動いている。5月にフィリピン、マレーシアが利下げに踏み切り、その後インドネシア、タイが追随した。2019年後半も不透明な経済状況が続くとアナリストはみている。

2. 【インド】自動車販売が大幅減。政府のテコ入れ策に期待が集まる

世界第4位の自動車市場であるインドの7月の新車販売は、前年同月比30%減の25万7,656台と大幅減となった（2000年12月以来の大幅な落ち込みとなった）。最大手のマルチ・スズキが36%減、タタ・モーターズも31%の減少だった。通年でも前年度実績（337万台）を下回る可能性が高まってきた。

その要因としては、景気の減速（第1四半期は5.8%成長にとどまった）、保険負担の増加、洪水などの自然災害などがある。その中でも最大の要因と指摘されるのが、ノンバンク金融会社（影の銀行）が提供していた流動性の収縮である。

インド自動車メーカーの業績も悪化している。2019年4-6月期における、タタ・モーターズの自社ブランド国内事業は4億ルピーの赤字に転落した。また、生産を停止する企業も出ている。マヒンドラ・アンド・マヒンドラは、工場の稼働を一時停止し、投資計画も延期する。タタやアショカリーランドも同様の措置をとる。自動車部品企業では、独ボッシュが国内工場で生産調整を実施した。

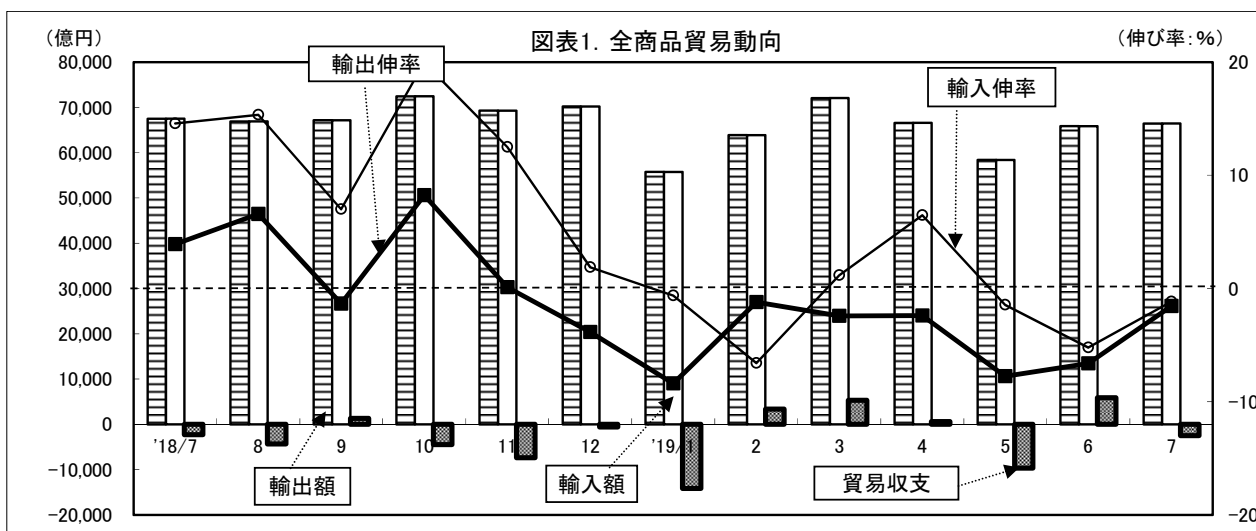
こうした状況のなか、自動車業界全体で人員削減が進んでいる。業界団体は、市場テコ入れのため物品サービス税（GST）の引き下げを政府に要求している。

一方、8月に入り、中央銀行が政策金利を0.35%引き下げており、これにより自動車ローンの金利が低下、「ディワリ」商戦を迎える年後半には、販売が持ち直すとの見方もある。

Ⅲ 個別動向

1. 全商品貿易動向～輸出は8ヶ月連続で減少、輸入も3ヶ月連続減少～

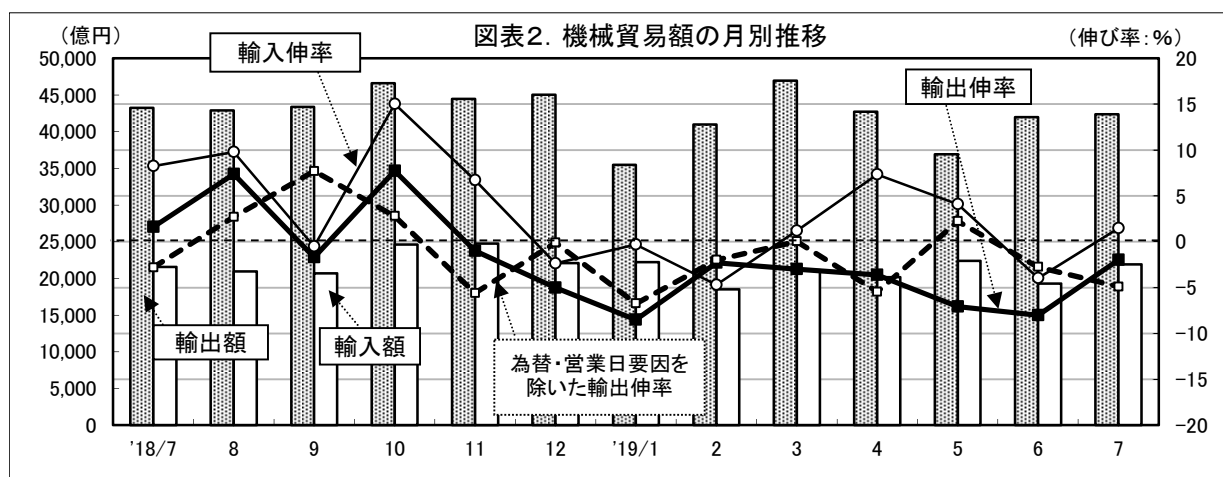
- 1) 2019年7月の全商品輸出額は**6兆6,434億円**、前年同月比(以下同じ)**1.5%減**と8ヶ月連続で減少した(6月6.6%減)。これは、約24%を占める輸送用機器(7.7%増)が増加したものの、約19%を占める一般機械(7.2%減)をはじめ、約17%の電気機器(7.3%減)、プラスチック等化学製品(0.1%減)等が減少したためである。
- 2) 輸入額は**6兆8,941億円**、**1.2%減**と3ヶ月連続で減少した(6月5.2%減)。これは、全輸入額の約15%を占める電気機器(0.3%増)、一般機械(2.7%増)が増加したものの、約21%を占める原油等鉱物性燃料(9.1%減)、医薬品等化学製品(6.6%減)等が減少したことによる。
- 3) この結果、輸出額から輸入額を差し引いた貿易収支は、約2,507億円と再び赤字(6月は5,896億円の黒字)となった。



2. 機械貿易動向

(1) 機械輸出入動向～輸出は9ヶ月連続減少、輸入は再び増加～

- 1) 全商品輸出額の約64%を占める7月の機械輸出額は**4兆2,373億円**、**2.0%減**と9ヶ月連続で減少し(6月8.0%減)、その水準は、リーマンショック前(2008年7月)と比べると**84.2%**となって、前月に比べて3.6ポイント悪化した(6月87.8%)。なお、為替・営業日要因を除いた**実質的伸び率**は**4.9%減**であった。
- 2) 一方、全商品輸入額の約32%を占める機械輸入額は、**2兆1,902億円**、**1.5%増**と再び増加し(6月4.0%減)、リーマンショック前(2008年7月)の水準に比べ、32.5%増となっている。

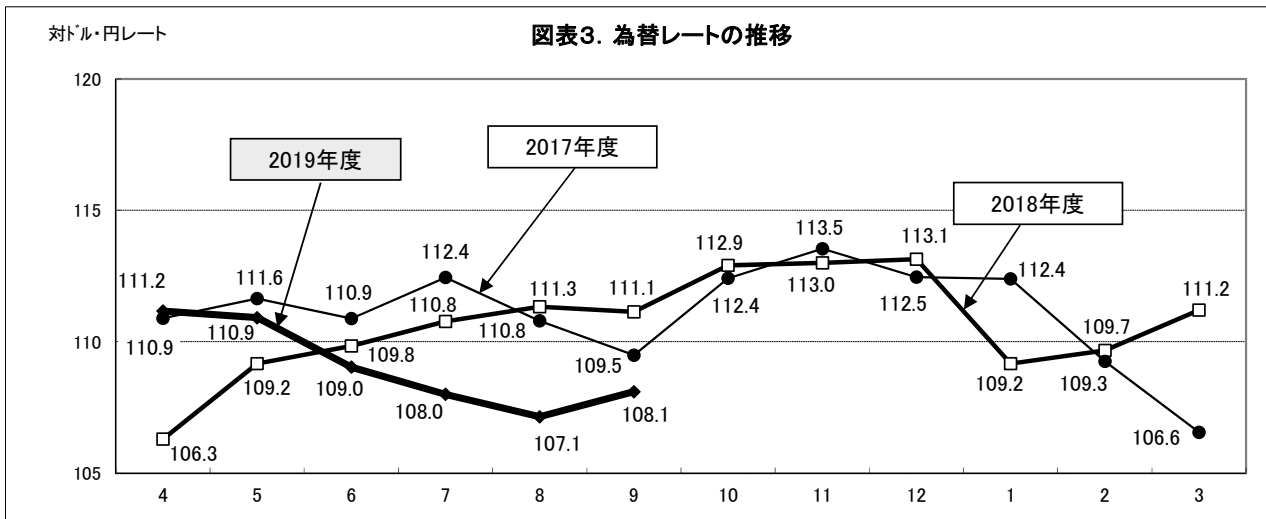


(2) 為替・営業日動向～7月は3.1%の増加要因、8月は10.9%の減少要因～

1) 2019年7月は1ドル＝108.0円となり、前年に比べ2.5%の円高となった。また、対ユーロは121.8円と前年に対して5.5%の円高となり、合わせて約1.6%の為替減少要因となった。営業日は前年に比べて1日多いため、約4.8%の増加要因となり、合計で約3.1%の増加要因となる。6月の輸出額は2.0%減であったことから、実質的伸び率は4.9%減と2ヶ月連続で前年同月比減少となった(6月2.7%減)。

2) 2019年8月は1ドル＝107.1円で前年比3.8%の円高、対ユーロは119.5円で前年比7.5%の円高となり、合わせて約2.4%の為替減少要因となった。営業日は前年に比べて2日少ないため、約8.7%の減少要因となり、合計で約10.9%の減少要因となる。

3) 2019年9月は、対ドルが9月18日17:00時点の108.1円とすれば、2.7%の円高、また、対ユーロは119.6円で7.3%の円高となり、合わせて約1.8%の為替減少要因となる。営業日は前年に比べて1日多いため、約5.6%の増加要因となり、合計で約3.6%の増加要因となる。



(3) 地域別動向～北米、EU、その他地域向けが増加～

1) 機械輸出額の地域的動きをみると、①全体の25.8%を占める北米向けでは、約49%を占める自動車(1.4%増)をはじめ、産業機械(21.2%増)、航空機部品(13.0%増)、建設機械(31.1%増)等が増加し、5.7%増となった。②21.2%を占める中国向けでは、産業機械(16.6%減)、自動車(7.6%減)、電子デバイス(6.7%減)、軽電気機械(5.2%減)等が減少して12.0%減となり、③14.4%のASEAN・南アジア向けは、インドネシア(14.1%減)、マレーシア(13.3%減)、パキスタン(52.3%減)等主要国向けがすべて赤字となり、業種でも、自動車(12.0%減)、産業機械(0.3%減)、電子デバイス(11.5%減)等が減少して8.9%減となった。④12.7%を占めるEU向けは、産業機械(15.4%減)が減少したものの、約42%を占める自動車(29.9%増)、軽機械(4.2%減)、建設機械(23.2%増)等が増加して6.5%増となり、⑤9.0%を占める韓国・台湾向けは、自動車(10.4%増)が増加したものの、産業機械(19.1%減)、電子デバイス(1.8%減)、重電気機械(16.4%減)等が減少して10.0%減となった。⑥16.8%のその他地域向けでは、大洋州(5.1%減)向けが減少したものの、中南米(17.8%増)、中近東(15.4%増)向けが二桁の増加となり、業種でも、産業機械(20.1%減)が減少したものの、自動車(3.9%増)、船舶(78.9%増)等が増加して7.0%増となった。

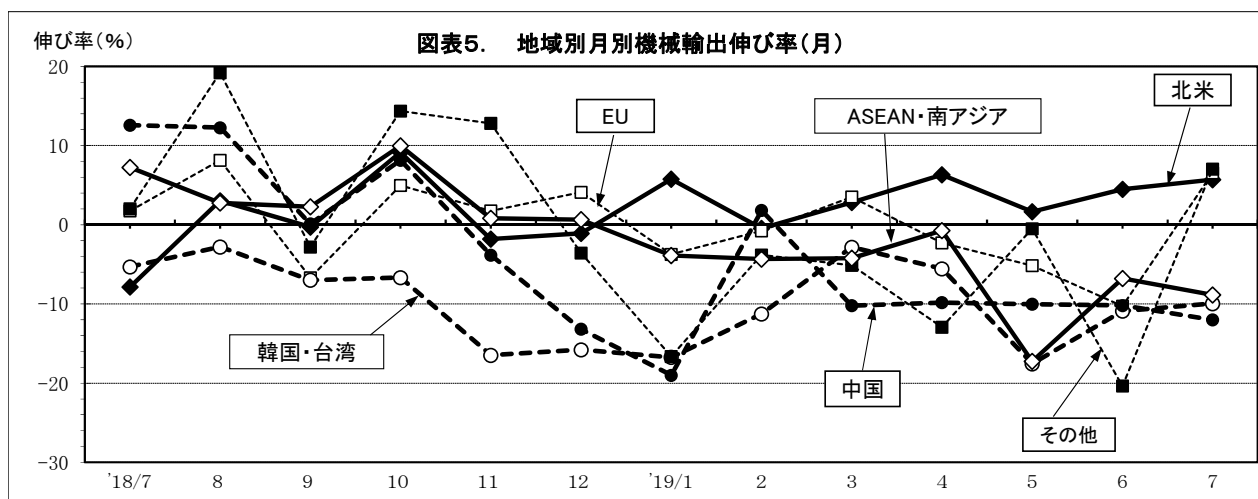
2) また、リーマンショック前の2008年7月の地域別輸出額と比較すると、北米、中国、ASEAN・南アジア向けが90%台、韓国・台湾向けが80%台、EU向けが70%台、その他地域向けが60%台となった。

図表4. 最近の地域別機械輸出動向

(単位: 億円)

	2019/5			2019/6			2019/7			対08年 7月比
	金額	伸び率	シェア	金額	伸び率	シェア	金額	伸び率	シェア	
全世界計	36,899	▲ 7.1	100.0	41,993	▲ 8.0	100.0	42,373	▲ 2.0	100.0	0.84
北米	9,605	1.7	26.0	11,169	4.5	26.6	10,951	5.7	25.8	0.98
中国	8,287	▲ 10.0	22.5	9,313	▲ 10.2	22.2	8,987	▲ 12.0	21.2	0.96
ASEAN・南アジア	5,041	▲ 17.2	13.7	6,374	▲ 6.8	15.2	6,104	▲ 8.9	14.4	0.96
EU	4,632	▲ 5.1	12.6	5,187	▲ 10.3	12.4	5,383	6.5	12.7	0.70
韓国・台湾	3,375	▲ 17.5	9.1	3,903	▲ 10.9	9.3	3,827	▲ 10.0	9.0	0.84
その他	5,959	▲ 0.5	16.1	6,048	▲ 20.4	14.4	7,121	7.0	16.8	0.64

は、2ヶ月連続で前年比10%以上増加。

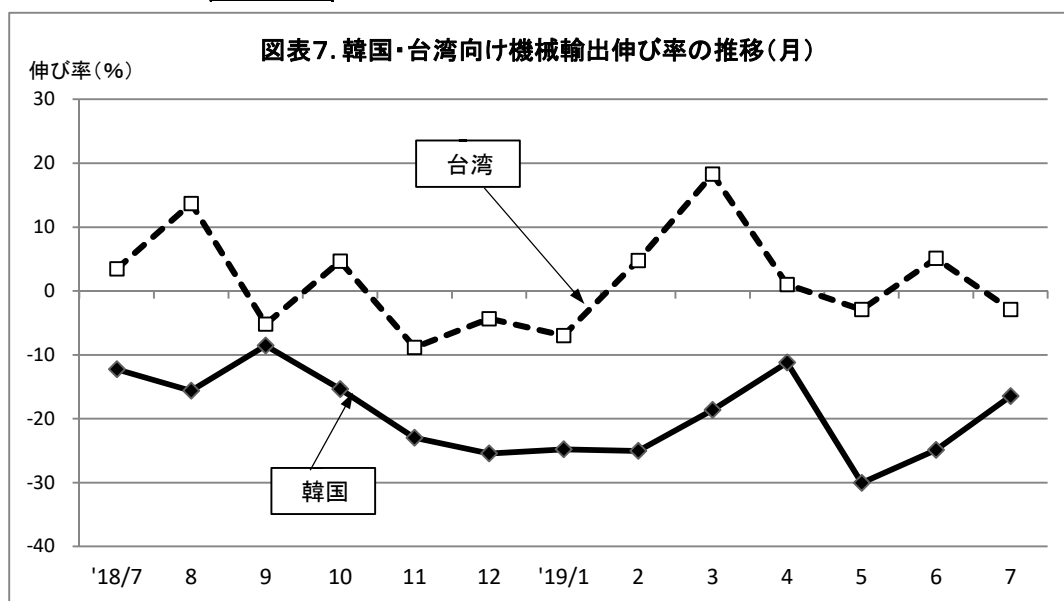


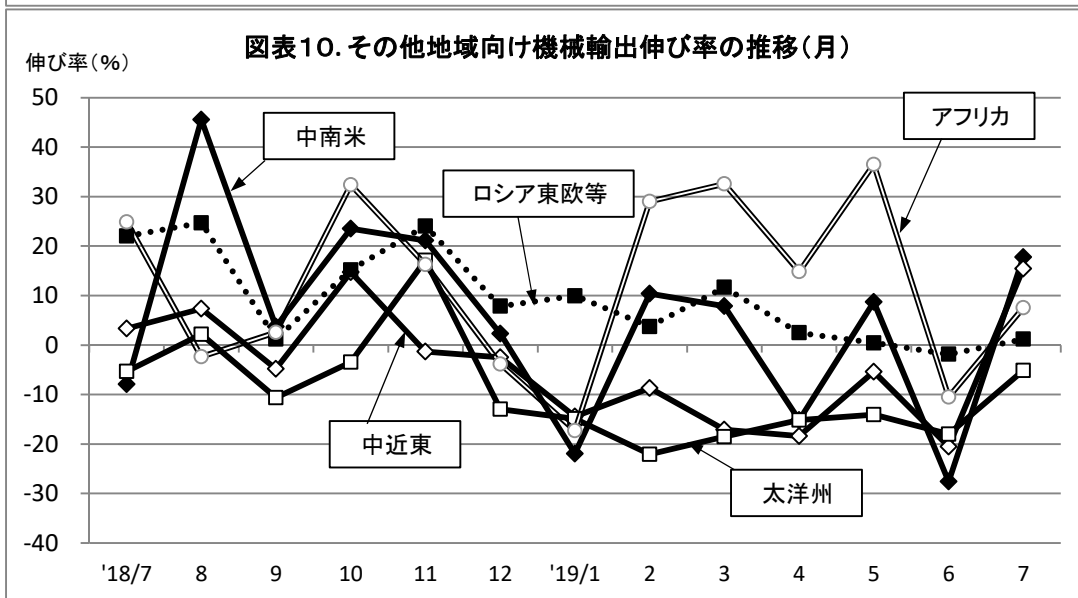
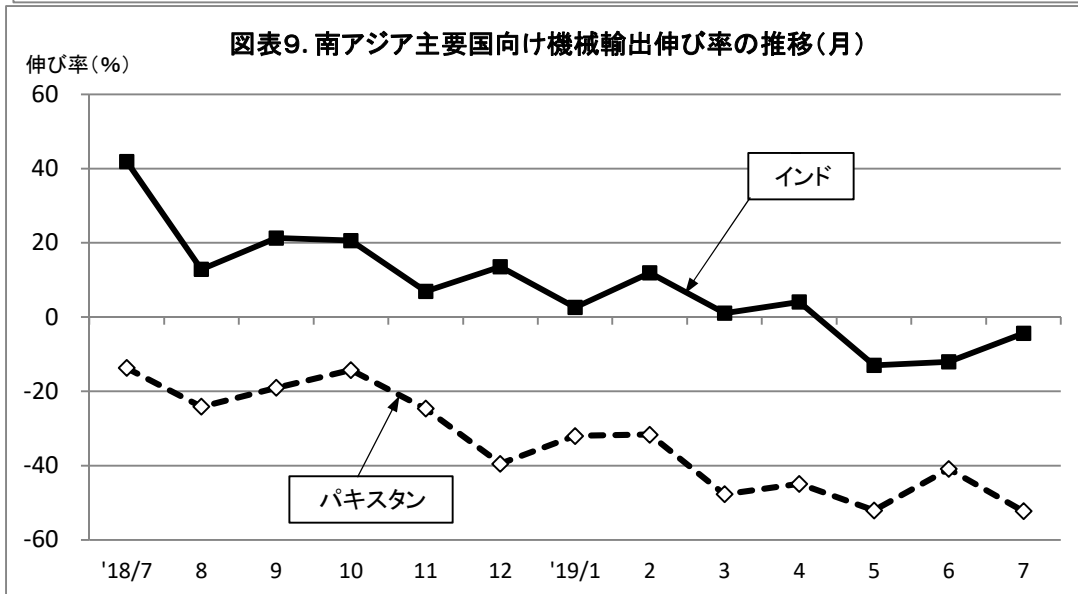
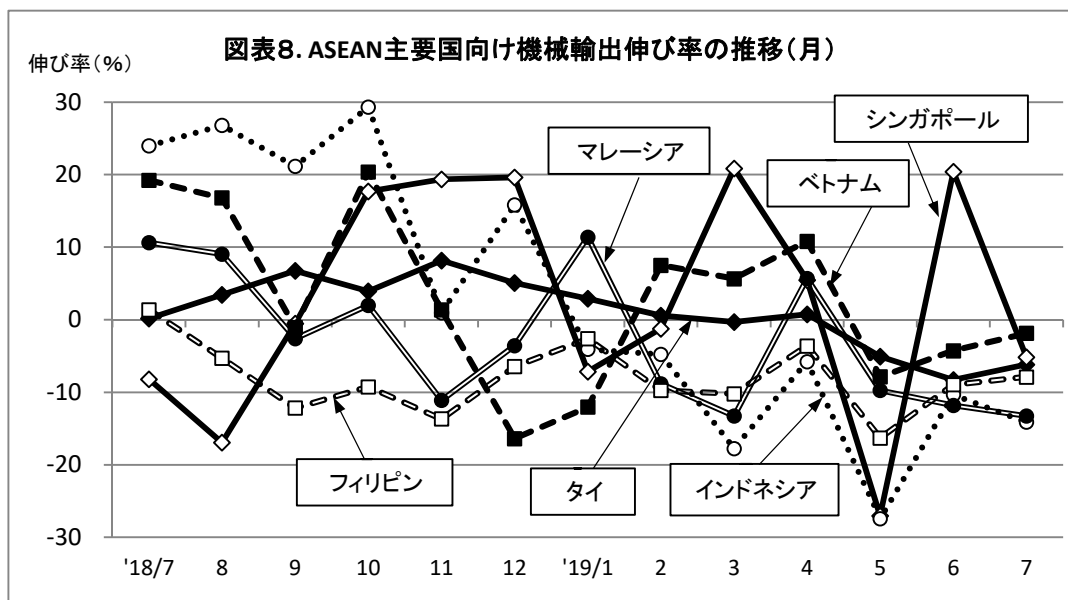
図表6. 韓国・台湾/ASEAN・南アジア/その他地域向け機械輸出の推移(月別)

(金額単位: 億円、%)

国 名	2019/4		2019/5		2019/6		2019/7	
	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率	金額	伸び率
韓国	1,976	▲ 11.2	1,544	▲ 30.0	1,753	▲ 24.9	1,837	▲ 16.5
台湾	1,945	1.0	1,830	▲ 2.9	2,150	5.1	1,990	▲ 2.9
ASEAN・南アジア								
タイ	1,585	0.8	1,406	▲ 5.1	1,636	▲ 8.3	1,559	▲ 6.2
シンガポール	1,054	5.4	732	▲ 27.0	1,086	20.4	837	▲ 5.2
インドネシア	919	▲ 5.8	498	▲ 27.4	858	▲ 10.3	842	▲ 14.1
マレーシア	712	5.7	571	▲ 9.7	630	▲ 11.8	646	▲ 13.3
フィリピン	635	▲ 3.6	547	▲ 16.3	626	▲ 9.0	637	▲ 7.9
ベトナム	708	10.8	653	▲ 7.9	745	▲ 4.3	779	▲ 1.9
インド	519	4.1	416	▲ 13.0	539	▲ 12.0	549	▲ 4.4
パキスタン	90	▲ 44.9	82	▲ 52.1	94	▲ 40.9	70	▲ 52.3
その他地域								
中南米	1,835	▲ 15.2	2,010	8.7	1,809	▲ 27.6	2,456	17.8
中近東	1,287	▲ 18.4	1,300	▲ 5.4	1,402	▲ 20.6	1,626	15.4
大洋州	1,306	▲ 15.2	1,015	▲ 14.0	1,130	▲ 18.0	1,303	▲ 5.1
ロシア東欧等	1,268	2.5	1,017	0.5	1,184	▲ 1.8	1,214	1.2
アフリカ	599	14.9	664	36.5	622	▲ 10.5	636	7.5

は、2ヶ月連続で前年同月比増加(10%以上)





(4)業種別動向～21 業種中自動車、船舶をはじめ 5 業種が増加。～

- 1) 業種別では、自動車(3.1%増)、船舶(60.5%増)、建設機械(2.4%増)、航空機部品(13.2%増)、農業機械(9.5%増)の 5 業種が増加し、前月に比べて 3 業種が増加した。そのうち、船舶、航空機部品が二桁の伸びとなったものの、機械全体では 2.0%の減少となった。
- 2) リーマンショック前の水準を超えたのは航空機部品、軽機械、ベアリング、医療機械の 4 業種となった(6月は7業種)。他方、電子計算機が30%台、産業車両、民生用電子機械が40%台の低い水準にある。

図表11 上位21業種の輸出額の動き

(単位: 億円、%)

2019/5			2019/6			2019/7			対08/7 比
業種名	金額	伸び率	業種名	金額	伸び率	業種名	金額	伸び率	
自動車	12,942	▲ 1.7	自動車	14,732	▲ 5.3	自動車	15,336	3.1	0.86
産業機械	6,390	▲ 18.2	産業機械	7,730	▲ 7.6	産業機械	7,266	▲ 8.9	0.90
電子デバイス	3,067	▲ 3.6	電子デバイス	3,266	▲ 8.0	電子デバイス	3,356	▲ 7.5	0.76
軽電気機械	2,088	▲ 8.5	軽電気機械	2,366	▲ 8.7	軽電気機械	2,464	▲ 1.7	0.95
重電気機械	1,772	▲ 11.1	重電気機械	2,084	▲ 9.4	重電気機械	2,076	▲ 8.7	0.88
軽機械	1,498	▲ 7.7	軽機械	1,735	▲ 5.2	船舶	1,741	60.5	0.98
船舶	1,450	39.4	民生用電子機械	1,407	▲ 7.2	軽機械	1,707	▲ 2.0	1.24
民生用電子機械	1,190	▲ 13.6	船舶	1,354	▲ 26.4	民生用電子機械	1,425	▲ 6.0	0.45
建設機械	1,159	▲ 4.5	建設機械	1,339	▲ 4.4	建設機械	1,267	2.4	0.80
光学機械	980	▲ 12.5	光学機械	1,116	▲ 10.2	光学機械	1,098	▲ 9.8	0.81
工作機械	701	▲ 5.7	航空機部品	724	2.0	航空機部品	758	13.2	1.8
航空機部品	673	▲ 4.1	工作機械	698	▲ 25.5	工作機械	698	▲ 18.1	0.77
陸用内燃機関	418	▲ 1.7	医療機械	517	▲ 2.3	医療機械	448	▲ 6.9	1.1
医療機械	408	▲ 5.9	通信機械	474	▲ 4.9	通信機械	442	▲ 18.3	1.0
通信機械	404	▲ 22.4	陸用内燃機関	456	▲ 4.3	ベアリング	423	▲ 1.6	1.0
ベアリング	386	▲ 1.9	ベアリング	406	▲ 8.8	陸用内燃機関	407	▲ 3.4	1.0
電子計算機	307	▲ 16.8	電子計算機	379	▲ 13.1	電子計算機	365	▲ 19.8	0.9
繊維機械	186	▲ 14.3	農業機械	216	▲ 3.3	農業機械	195	9.5	0.5
農業機械	186	▲ 6.1	繊維機械	196	1.6	繊維機械	167	▲ 12.5	0.4
産業車両	108	▲ 4.9	産業車両	121	▲ 7.4	産業車両	119	▲ 12.9	0.3
鉄道車両	80	▲ 51.1	鉄道車両	84	▲ 50.0	鉄道車両	78	▲ 47.0	0.2
21業種合計	36,392		21業種合計	41,400		21業種合計	41,835		0.84

は2ヶ月以上連続で10%以上増加。・産業機械: 半導体製造装置、印刷・製本機械、風水力機械、タービン
 ・民生用電子機械: デジカメ、TV、部品 ・電子計算機: ハソソ、HDD・プリンター等部品 ・軽機械: 試験・検査機、理化学用機器
 ・軽電気機械: 白物家電、電子計測器、配電機器、電池 ・光学機械: その他の光学機器(半導体検査装置、レーザー等)、カメラ部品
 ・通信機械: 通信機械部分品、受信変換・その他送受信機器

(5)機種別動向～船舶が大きく増加、鉄道車両、携帯電話等が大幅減少～

- 1) 10%以上の伸び率を示したのは、①その他地域向け船舶(60.5%増)、②ASEAN・南アジア、米国、中国向け金属加工機械(15.5%増)、③北米、EU 向け TV(13.5%増)、④北米向け航空機部品(13.2%増)、⑤北米、その他地域向け乗用車(10.8%増)、⑥北米、中国、EU 向け電池(10.2%増)であった。
- 2) 一方、最も落ち込み幅が大きいのが、鉄道車両(47.0%減)、携帯電話(33.6%減)等であった。

図表12. 伸び率上位機種(月50億円以上、前年比伸び率10%以上、10機種以内)

(単位: 億円、%)

2019/5			2019/6			2019/7		
機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率
船舶	1,450	39.4	時計	108	11.9	船舶	1,741	60.5
機種合計	1,450	* 3.9%	機種合計	108	* 0.26%	金属加工機械	273	15.5
						TV	117	13.5
						航空機部品	758	13.2
						乗用車	9,675	10.8
						電池	582	10.2
						機種合計	13,146	* 31.0%

は、2ヶ月連続で上位機種 * 機種合計の%は輸出額に占める割合
 通信機械部分品: ゲートウェイ、リピーター等 受信変換・その他送受信機器: ルーター、LANスイッチ等ネットワーク関連機器

図表13. 減少率上位機種(月10億円以上、10%減以上、10機種以内)

(単位: 億円、%)

2019/5			2019/6			2019/7		
機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率	機種名	金額	伸び率
鉄道車両	80	▲ 51.1	鉄道車両	84	▲ 50.0	鉄道車両	78	▲ 47.0
通信機械部分品	131	▲ 39.6	デジカメ・ビデオ	223	▲ 32.8	携帯電話	13	▲ 33.6
産業用ロボット	132	▲ 31.7	写真機の部分品・附属品	102	▲ 29.5	通信機械部分品	149	▲ 28.8
写真機の部分品・附属品	94	▲ 31.2	船舶	1,354	▲ 26.4	写真機の部分品・附属品	84	▲ 24.7
半導体製造装置	1,624	▲ 30.4	工作機械	698	▲ 25.5	磁気カード・ディスク等	101	▲ 21.1
デジカメ・ビデオ	226	▲ 22.7	磁気カード・ディスク等	107	▲ 20.7	原動力機械	323	▲ 20.6
磁気カード・ディスク等	104	▲ 20.5	原動力機械	357	▲ 20.6	電子計算機	365	▲ 19.8
電子計算機	307	▲ 16.8	産業用ロボット	150	▲ 19.0	工作機械	698	▲ 18.1
風水力機械	611	▲ 15.6	金属加工機械	256	▲ 17.3	半導体製造装置	1,907	▲ 13.5
繊維機械	186	▲ 14.3	貨物自動車	716	▲ 16.4	産業車両	119	▲ 12.9
機種合計	3,495	* 9.5%	機種合計	4,047	* 9.6%	機種合計	3,837	* 9.1%
			は、2ヶ月連続で減少率上位10位内			* 機種合計の%は輸出額に占める割合		

(6) 機械輸入動向～電子計算機、医療機械等が増加、電子デバイス、航空機・部品等が減少～

- 1) 7月の機械輸入伸び率は1.5%増と再び増加した。上位12機種のうち7機種が増加し、そのうち電子計算機(13.0%増)、医療機械(24.6%増)、受信変換その他送受信機器(11.6%増)の3機種が二桁の増加であった。減少したのは、電子デバイス(16.3%減)、航空機・部品等(10.0%減)、自動車部品(4.8%減)、携帯電話(7.0%減)、乗用車(7.1%減)の5機種であった。
- 2) なお、輸入額が輸出額を上回っている機種は金額順に電子計算機、航空機・部品等、携帯電話、白物家電、医療機械、受信変換その他送受信機器、配電機器、時計、TV、デジカメ・ビデオ、通信機械部分品の11機種となっている。
- 3) 地域別機械輸入額は、全体の38%を占める中国(3.2%増)、ASEAN・南アジア(7.5%増)、EU(3.1%減)、北米(1.4%増)、韓国・台湾(8.5%減)、その他地域(8.9%増)の順であった。

図表14. 機械輸入額上位12機種

(単位: 億円、%)

2019/5				2019/6				2019/7			
機種名	金額	伸び率	シェア	機種名	金額	伸び率	シェア	機種名	金額	伸び率	シェア
電子デバイス	2,120	▲ 8.3	9.5	電子デバイス	2,141	▲ 4.7	11.1	電子デバイス	2,081	▲ 16.3	9.5
電子計算機	2,010	21.5	9.0	電子計算機	1,748	12.0	9.1	電子計算機	2,022	13.0	9.2
航空機・部品等	1,882	8.1	8.4	航空機・部品等	1,324	6.8	6.9	航空機・部品等	1,448	▲ 10.0	6.6
乗用車	1,374	15.5	6.1	自動車部品	1,043	▲ 14.4	5.4	自動車部品	1,213	▲ 4.8	5.5
自動車部品	1,156	▲ 5.8	5.2	乗用車	910	▲ 15.5	4.7	携帯電話	1,063	▲ 7.0	4.9
携帯電話	1,054	▲ 0.2	4.7	携帯電話	884	▲ 11.1	4.6	乗用車	967	▲ 7.1	4.4
白物家電	942	5.4	4.2	白物家電	876	▲ 2.0	4.5	白物家電	885	3.9	4.0
医療機械	752	17.7	3.4	医療機械	668	8.5	3.5	医療機械	820	24.6	3.7
配電機器	641	3.7	2.9	配電機器	581	▲ 4.1	3.0	受信変換その他送受信	664	11.6	3.0
受信変換その他送受信	619	16.9	2.8	受信変換その他送受信	539	▲ 2.2	2.8	配電機器	663	8.0	3.0
コンデンサー等部分品	455	17.6	2.0	コンデンサー等部分品	402	9.4	2.1	コンデンサー等部分品	439	8.4	2.0
その他の配電制御装置	421	0.0	1.9	その他の配電制御装置	386	▲ 1.5	2.0	その他の配電制御装置	428	2.5	2.0
12機種合計	13,426		60.0	12機種合計	11,502		59.6	12機種合計	12,693		58.0

は対前年比が2ヶ月連続で10%以上増加。・白物家電: 民生用電気機械

・受信変換その他送受信機器: ネットワーク関連機器 ・その他の配電制御装置: スイッチ、配電盤、制御盤等